

DOHaDにおける膵臓、肝臓およびインスリン抵抗性 —妊娠糖尿病管理の視点から先制医療を考える—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003451

教育講演 1

DOHaD における膵臓、肝臓およびインスリン抵抗性
—妊娠糖尿病管理の視点から先制医療を考える—

The roles of pancreas, liver and insulin resistance in DOHaD theory: Gestational diabetes as a promising target of preemptive medicine

伊東 宏晃

浜松医科大学附属病院 周産母子センター

Hiroaki Itoh

Hamamatsu University School of Medicine, Department of Obstetrics and Gynecology

種々の疫学研究や動物実験の成果から、胎生期における低栄養環境ならびに高栄養環境いずれを経験した場合においても、成長後においてメタボリックシンドロームを発症するハイリスク群となる可能性が指摘されている。

我が国の妊孕世代女性において、強いやせ願望から摂取エネルギーの不足が指摘されており、妊娠中のエネルギー摂取の不足から、看過しがたい数の胎児が、比較的低栄養環境に曝されていることが危惧されている。

一方、出産年齢の高齢化などの背景から、我が国では妊娠糖尿病を発症する妊婦の比率が増加している。諸外国に比べて比率は低いものの肥満妊婦も認められる。妊娠糖尿病あるいは糖尿病を合併した妊婦の血糖コントロールが不十分であった場合、胎児は高血糖環境に曝されることが危惧される。妊娠糖尿病を発症した女性（母親）は 2 型糖尿病を将来発症するハイリスクとして知られている。

本講演では胎生期の栄養異常が膵臓、肝臓の臓器発達に及ぼす影響という視点から、次世代のメタボリックシンドローム発症のリスク因子形成について諸家の研究を紹介する。

また、我が国では毎年約 100 万人の妊婦を対象として、妊娠糖尿病のスクリーニングが行われている。妊娠糖尿病合併妊婦の血糖管理を徹底することで次世代のメタボリックシンドロームを発症するリスクを軽減しうる可能性が期待される。一方、妊娠糖尿病を発症した女性を長期フォローアップすることで母親の 2 型糖尿病発症リスクを軽減しうる可能性が期待される。既存の妊娠糖尿病スクリーニング制度を発展させるという視点から、実現可能な先制医療(preemptive medicine)の可能性について紹介する予定である。

【略歴】

学歴・職歴：

昭和 61 年 京都大学医学部医学科卒業

平成 6 年 京都大学医学部附属病院（婦人科学産科学）、助手

平成 8 年 ウィスコンシン州立大学マジソン校医学部産婦人科、
Visiting assistant professor (2 年)

平成 17 年 3 月 1 日 京都大学大学院医学研究科器官外科学（婦人科学産科学教室）、講師

平成 20 年 7 月 1 日 浜松医科大学附属病院 周産母子センター、講師

平成 23 年 1 月 1 日 同上、病院教授

平成 23 年 8 月 1 日 同上、センター長
現在に至る

賞罰：

平成 17 年 4 月 4 日 第 57 回日本産科婦人科学会、優秀演題賞

平成 17 年 7 月 5 日 第 13 回臨床医科学フォーラム、井村特別賞

平成 20 年 4 月 15 日 Best Reviewer Award 2007, The Journal of
Obstetrics and Gynecology Research

平成 23 年 6 月 3 日 第 13 回神澤医学賞

学術雑誌 Editor：

Scientific Reports (ISSN: 2045-2322)

Journal of Developmental Origins of Health and Disease (ISSN: 2040-1744)

Journal of Obstetrics and Gynecology Research (ISSN: 4993-0711)

DOHaD 研究(ISSN 2187-2597)